

表示器における統合エンジニアリング環境

赤塚成啓*
宇佐美哲之*

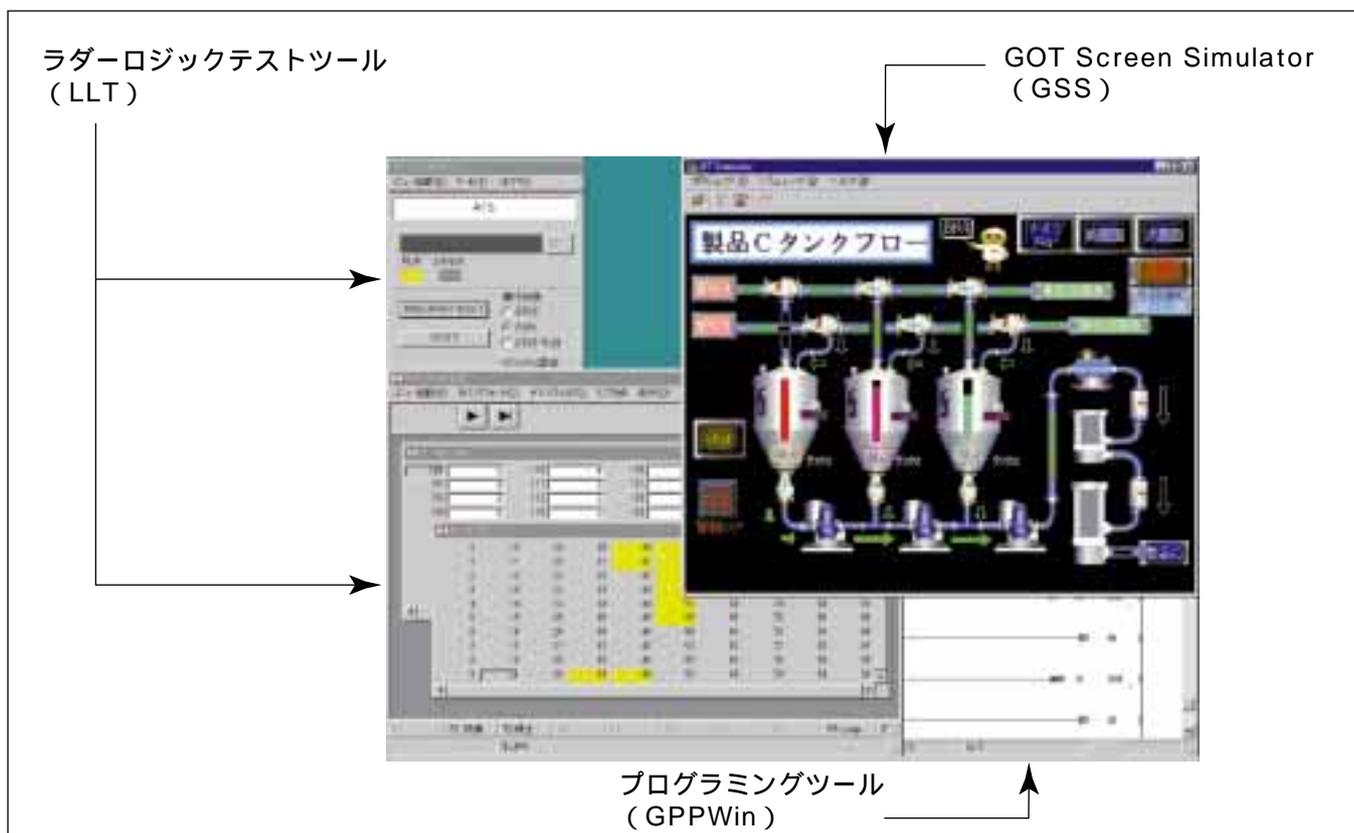
要 旨

近年、プログラマブル表示器(表示器)市場では、表示器本体の機能・性能はもちろんのこと、ユーザーの画面作成をいかに支援し画面作成にかかる工数を削減できるかがポイントになってきている。また、表示器の画面のみならずコントローラのプログラミングも含めた開発工数の削減も大きなポイントとなっている。

今回、パソコン上で三菱電機の表示器であるGraphic Operation Terminal(GOT)の動作をシミュレートするソフトウェアGOT Screen Simulator(GSS)を表示器業界で初めて開発した。これにより、EZSocketを中核として、

プログラミングツール(GPPWin)、ラダーロジックテストツール(LLT)と連携し、パソコン上ですべての画面デバッグが行える表示器統合エンジニアリング環境を提供することによってユーザーの開発効率を大幅に向上することが可能となった。

本稿では、表示器を中心としたユーザーの開発効率を高めるための統合エンジニアリング環境の動向と在り方、そして当社が開発したGSSを中心とした表示器統合エンジニアリング環境の概要、及び統合エンジニアリング環境を可能とした技術について述べる。



表示器統合エンジニアリング環境

表示器画面デバッグソフトウェアGOT Screen Simulator(GSS)、ラダーロジックテストツール(LLT)、プログラミングツール(GPPWin)をパソコン上で実行している状態を示す。各ソフトウェアが連携することにより、パソコンのみで表示器システムのデバッグが可能となる。